

第二期開成町子ども・子育て支援事業計画（素案）に対するご意見とご回答

	ご意見	回答
1	<p>母子保健推進員（P77）について。</p> <p>母子保健推進員は現在、定員割れを起こしています。</p> <p>考えられる理由としては、町からの依頼とは別に、自治会行事への参加要請があること、そして、働く主婦が増えてきたことで、母子の活動に時間がとれる人そのものが少なくなっていること、が挙げられます。</p> <p>サービスの優先順位を見極め、活動内容をスリム化することも、人材確保の上で、重要ではないかと考えます。</p>	<p>母子保健施策を推進するために、地域で活動する町民のボランティアとして母子保健推進員を設置しています。町が委嘱した母子保健推進員が、訪問活動や乳幼児対象の町事業へ役割を担っており、妊娠・出産・子育てと切れ目ない支援を目指している開成町にとって、母子保健推進員の活動は欠かせない存在となっております。</p> <p>担い手不足は母子保健推進員のみならず、多くの団体や組織でも共通する課題だと認識しており、訪問活動の回数を減らすなど、状況に合わせて見直しを行ってきております。</p> <p>今後も活動を続けていくために、町の状況やお子さんやそのご家族、母子保健推進員の意見聴取を実施しながらより良い活動が行えるように検討を重ねてまいります。</p> <p>引き続き母子保健事業の推進にご理解とご協力をお願いします。</p>
2	<p>習い事、塾、早い年齢では、就学前から始まっています。これらの習い事、塾が家計を圧迫するため、母親が、子どもの教育費に充てるために仕事にでる状況が発生していると思われます。</p> <p>町の教育環境の充実（P80）にある、幼小中高連携事業で</p>	<p>文部科学省が示している幼稚園教育要領において、幼稚園教育において育みたい資質、能力として①健康な心と体、②自立心、③共同性、④道徳性、規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり、生命尊重、⑧数量や図形、標識や文字などへの関心、感覚、⑨言</p>

	<p>は、異年齢交流の場としてふれあいはできていると思われませんが、小学校に上がる前、中学校に上がる前、どんな学びが必要か、情報提供があるとよいと思います。</p> <p>世の中の的には、小学校に入るときには、自分の名前をかけるようにする、などの働きかけがありますが、開成町では、小学校に入ってから、ひらがな、カタカナを学習します。</p> <p>幼稚園時に習得した子と、初めて習う子とでは、入学時に大きな差が発生しています。</p> <p>初めて習う子は、お友達が知っていることで自信をなくしたり、すでに習っている子は、授業に興味をなくして、学校が楽しくなくなってしまう、などの弊害もあるのではないのでしょうか。</p>	<p>葉による伝え合い、⑩豊かな感性や表現が示されています。したがって、基本的には、ひらがな、カタカナ学習は小学校入学以降に習得するものと考えています。</p>
3	<p>大井高校がクリエイティブスクールになりましたが、小学校、中学校で、授業をフォローする場が必要なのではないかと考えます。</p> <p>例えば、青少年育成事業（P83）でジュニアリーダーを育成する研修等がありますが、ジュニアリーダーが活躍する場を提供するのはどうでしょうか。</p> <p>幼稚園に行き、ひらがな、カタカナ、などを遊びながら紹介する場を設けたり、小学校に行き、中学校で学ぶ内容の紹介したり、など、できることがあるように思います。</p>	<p>クリエイティブスクールとは、一人ひとりが持っている力を必ずしも十分に発揮できなかった生徒に対して、これまで以上に学習意欲を高める新たな仕組みのことであり、学び直しが主な内容となっています。</p> <p>現在、個別の授業フォローのようなものは実施していませんが、中1ギャップ解消を目的として中学校の教員が小学校で授業を行うような取組みを行っています。</p> <p>また、ジュニアリーダー研修は学習支援を目的としたものではなく、豊かな人間性や社会性を育み積極的に社会に参画することを目的に育成、研修を実施していることから、クリエイティブスクールの内容として盛り込むのは難しいと考え</p>

		ます。
4	<p>あじさい塾 (P8 4)、とても素敵な事業だと思います。</p> <p>こちらで、クリエイティブスクールのようなサポートはできないでしょうか。</p>	<p>あじさい塾とは、学校での教育課程以外の時間に子供たちが教育活動や体験活動を通じて学ぶ場を提供するものです。</p> <p>内容としては、カリキュラムの都合上、学校の授業では扱えないような事業などを対象としています。ご意見にある学校の授業の補習をするようなものではありませんが、さまざまな学習・体験を通してこれからの社会で必要となる「生きる力」を身につける事業展開をこれからも推進してまいります。</p>
5	<p>開成町の子どもたちが、町外で活躍するのは素晴らしいことですが、“各家庭でかかる教育費に占める割合が高い町”とならないよう、幼小中の教育に力を入れるサポートを、今後ぜひとも強化願いたいと思います。</p>	<p>現在、町では小、中学校に学校介助教員を配置しており、児童・生徒が授業を理解できるような環境整備に努めているところです。</p>